



保育

いのち
伝えよう 生命の尊さ はとけの心

11
Nov.

間近に迫る「子ども・子育て支援制度」

平成22年11月、幼稚園や保育所を震撼させる衝撃的な提案が政府から打ち出されました。いわゆる「子ども・子育て関連3法」です。この法案に対して保育界は一丸となつて死守したため政府も一時は頓挫し、現行通りとすることを容認しました。しかし、その後の民主・自民・公明3党によって「子ども・子育て関連3法案」は衆議院を通過。参議院での審議を経て、平成27年4月からの実施が決定しました。政権は民主党から自民党に移行し、そして今、政府は新制度促進のため「子ども・子育て支援制度」についての説明会が随所で行われていることは周知のとおりです。

当協会においても同法案に関する新しい答申が出される都度、その法案に関わってきた委員を講師に招いて研修会等を開催し、その概要を本紙で報告してきました（柏女靈峰先生・淑徳大学教授〈H24・8、No.580〉／田中雅道先生・全日私幼児教育研究機構理事長〈H25・12、No.596〉／吉田正幸先生・保育システム研究所代表〈H26・3、No.599〉田中雅道先生〈H26・7、No.603〉等）。

新制度への詳細については、内閣府等のHP等で確認し、誤りのない対応をされることが肝要だと思います。

「子ども・子育て新制度」の実施は、いよいよ目前に迫つてきました。

しかし、すでに認定こども園に移行した施設の中でも「認定こども園法の改正」以降、「認定」を返上する園が増えつつあります。補助金等の減額の風聞などによる不安からの返上と思われます。政府は「認定返上」

の説明会で気になる点について述べるに留めます。

■名称変更、入園料返還等について

これまで使われてきた名称のうち「利用者負担額」は「基本負担額」に、「上乗せ徴収」は「特定負担額」という名称に変わりました。

入園料についても、入園前に

入園料を徴収し、その後に入園を辞退したいと申し出た場合は原則として入園料を返還すべきだと、国は考へています。しかし、返還する部分と返還しない部分があります。例えば、「教育・保育の対価」並びに「入園準備・選考等に係る事務手続き等に要する費用の対価」であれば、必ずしも返還を要しないと、国は考へています。

また、この3月、「公定価格」についても一応の骨格が決まりました。しかし、この3月、「公定価格」についても、基本部分単価と加算部分で構成されることになっています。そのイメージについては、内閣府等のHPを参考されると良いでしょう。本稿では、新制度におけること最近

集要項に同意します」といった文言を表記し、保護者の記名・押印等の欄を設けておくのが賢明のようです。

■「認定こども園」

全国説明会】より8月末に内閣府合同庁舎で行われた「認定こども園」に向けて全国説明会から要点を列記しております。

1. 経緯について

平成18年にスタートした「認定こども園」の意義は大きいと思われるのだが、希望する園が少ないと、平成21年にその原因を分析し、以下の3点を改めた。

- ①財政支援が十分ではない。
- ②【支援充実に努める】
- ③省庁間および自治体間の連携が不十分である。

【二重行政を解消する】

③教育・保育・子育て支援の総合的な提供・質の向上に問題あり。

【新幼保「連携型認定こども園」】

つまり、保育所は措置制度を維持することになり、幼稚園における私学助成も継続するが、「認定こども園」だけが中途半端な存在に置かれたという構図のようです。



2、「公定価格」の収入見込みと現行収入との「比較試算方法」のチェックポイントについて

説明に先立つて、『新制度に移行すれば収入が減少する』といふのは全くの風間であり誤解であるから、先ず誤解を解消して欲しいとの要望がありました。

① 定員区分は認可定員によつて決まるという誤解について。

【利用定員は認可定員に一致させることができないが、実際の利用人員が認可定員を大きく下回っている場合は、実際の利用人員を踏まえて利用定員を設定して欲しい。】

② 定員区分は、施設全体の定員によって決まるという誤解について。

【1号部分と2・3号部分を分けた計算したものを作成する。単価は、1号の利用定員、2・3号の利用定員ごとに適用して欲しい。】

③ 同じ定員区分の幼稚園に適用される1号の基本単価と、認定こども園に適用される1号の基本単価を比較すると、後者の方が低い額に設定されているため、認定こども園では、事務経費など共通部分が1施設分となるよう、1号単価と2・3号単

価で等分した水準にしている。つまり、認定こども園になると園児の区分ごとに、園長・事務職員・学校医などは0・5人、ずつ管理経費の子育て支援活動費などが半額ずつになる」という説明でした。

なお、公定価格で算出される給食費については、1号認定は材料費を実費徴収し、2号認定では主食費のみ実費徴収、3号認定については徴収不要といふ、ちょっと首を傾げたくなるような説明でした。

3、利用者負担について

教育標準時間認定（1号給付）を受ける子どもには、現行の幼稚園就園奨励費を考慮する。保育認定（2・3号給付）を受けた子どもについては、現行の保育所運営費による保育料設定を考慮したとの説明でした。

4、利用調整について

待機児童のいない地域では、保護者の希望を優先する。待機児童がいる地域には、主に0・2歳の部分のみ利用調整が入るという説明でした。

5、「幼保連携型認定こども園」について

幼保連携型認定こども園と、それ以外の認定こども園の比較についての説明によれば、幼保連携型は児童福祉施設として補助するとの説明に止まりました。

■全国認定こども園協会の緊急対策検討会より

その後、大きな動きは見られませんでしたが、10月21日に「全国認定こども園協会（代表理事・若盛正城『子どものもり理事長』埼玉県）」が、子ども・子育て支援新制度移行に向けた緊急対策検討会を開催しました。内閣府・文部科学省・厚生労働省の担当官が出席し、最近の動向について説明しました。

はじめに、内閣府の中島誠審議官から、財源確保や公定価格等が不安定な状況にある中で、27年度の施行を控え、各園に少なからず懸念を抱かせたことに反省の意を示されました。更に、政権与党と協議していく中で、現場の悩みを真摯に受け止めて対応していくと挨拶されました。

少子化が進む中、「子育て支援制度」が少子化への歯止めになることを願う気持ちは他に劣るものではありませんが、施設の開所時間などはどんどん拡大されていき、子どもを預ける時間が長くなっていくであろうことは予想されます。

長時間保育の弊害は、広く知られているところです。一日の大半を預ければ、その子どもの適応能力が低下するという話も耳にします。

「我慢することを見えた子どもや保護者のために質の高い教育・保育を提供するという認識こども園の役割は変わらない。認定こども園の理念を發揮できるよう、国に改善を働きかけていくことを示されました。文部・厚労の行政担当官からも「公定価格」の試算に対する理解。新幼保連携での園長等におけるギャップなど、減収に繋がる諸問題についても検討すると言いました。

（＊各説明会等の資料より抜粋）

「ほとけの子」は保護者向けの月刊誌です。
心の豊かさが求められる今日です。
佛教保育を主眼とした内容、
特に年5回の佛教行事の特集は、
行事説明だけに終わらない、
その道の諸先生方の御健筆が冴えています。
御購読下さいますようお薦め下さい。

公益社団法人 日本佛教保育協会編集

月刊
ほとけの子

定価120円(税込)

株式会社 宣協社

〒150 東京都渋谷区鷺谷町7-7 OHビル201号
TEL. 03-3463-1931(代) FAX. 03-3463-0608



『日仏保福島支部結成』の報告と

次期（第34回）『全国仏教保育福島大会』開催に向けて

福島県佛教保育協会会長 吉岡 棟憲（日仏理事／福島ルンビニ幼稚園園長）

「放射能から守る」ことへの陳情に際しては、内閣府への橋渡しをしてくださり、政府要人と面談の実現にもご尽力いただきました。

連携と仏教保育の促進を誓い、意気高く終了することができました。

席上、日仏保様より多額の支部奨励費やお祝い等を頂戴しましたこと、併せてご報告し、茲に改めて感謝申し上げます。

部奨励費やお祝い等を頂戴しましたこと、併せてご報告し、茲に改めて感謝申し上げます。

第一回全国仏教保育福島大会

開催に向けて

平成29年5月21日 一社 国法
人 日本仏教保育協会福島支部
結成の夢が実現致しました。支
部結成については長年の懸案事
項でありましたが思うに任せ
ず、いたずらに時を経過してま
いりました。

၁၆၅

我が園のある福島市は原子力発電所から60キロメートルほど離れた位置ですが、事故発生と同時に私立幼稚園（20園）の園児たち、およそ500名が避難のために退園。あるいは入園を取り止めました。その後も園児たちの帰還は進まず、いずれの園においても“園児減”の中で厳しい運営を強いられるようになりました。

後に非難を余儀なくされましたが、非難区域外の地域においても、子どもを持つ家庭では、我が子の将来を案じ、不安を募らせるばかりでした。そんな時、未組織である福島県に対しても「日仏保」様からご支援が寄せ

感激しました。

にとどまりました。しかし、その意義は大きく深いものがあります。5月27日の結成式は「須賀川幼稚園」を会場に、日仏保より緑谷一雄理事長、高山久照常任理事、古屋吉雄常任理事の各先生、福島県仏教会の丹治宥勝会長などのご臨席を賜り、さやかな中にも各園との今後の

また日仏保育員の先生方をはじめ、加盟園の幼稚園から若手先生が何度も福島まで足を運んでくださつて激励を賜つたことなど、行動の速さ、省庁・政治家との関係の深さなどを再確認し、支部結成に至つた次第です。

更に、有難さを感じたことを報告させていただきます。

更に、有難さを感じたことを報告させていただきます。

7月26日・27日の一日間、「第33回全国仏教保育京都大会」が開催されました。その席上において、名譽ある「古屋賞」受賞

先生方が集われ、被災地福島県を激励いただけますとともに、災害にも負けず保育に頑張る教職員たちに仏教保育の真髄をいただければと思い、お引き受け致しました。

の榮に浴しました。大震災で被災し苦しむ中、仏教保育を重視して運営を行つたことへの評価のことでしたが、感激の極みでありました。それにお応えすべく、次期「第34回全国仏教保育大会」の開催地は福島と決定です。発表させていただいたこと

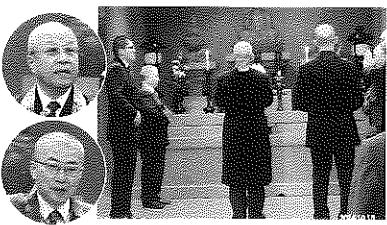
京都大会の豪華絢爛さはさすがに京都」と、長く記憶に残る素晴らしい大会でした。福島では遠く及ぶものではありませんが、背丈に見合つた大会を心掛けて実行に向けてまいりたいと思つています。何卒、各園のご支援ご協力をお願い申し上げます。

次期大会でも全国から多數の

掌

「日本佛教教育学会・第23回学術大会」より報告

平成26年10月18日／駒澤大学駒澤キャンパス



10月18日、駒澤大学駒澤キャンパスにおいて標記の大会が開かれました。この催しは、教育に携わる先生が日頃の研究・実践の成果を持ち寄り、佛教教育の今日的課題や果たすべき役割などについて議論を交わしながら学びを深めることを目的としています。

開会式のあと第一部会と第二部会に分かれ、17名の先生方が発表されました。午後3時から、同大学中央講堂において駒澤大学総長・池田魯山（いけだるさん）先生より「禪の教育法」というテーマの公開講演がありました。その後、記念撮影・懇親会と続き、実り多い一日となりました。

本稿では、当協会講師としてもご指導頂いている佐藤達全先生と佐藤成道氏（父子）お二人の研究発表（第一部会・要旨）をお伝えします。

研究発表



「仏教保育協会『はじまり』の真実」 ～「仏教保育」という言葉の誕生と 協会設立の経緯～

佐藤成道氏（淑徳大学大学院）

組織や学問など、形作られている枠組みや領域には必ず「はじまり」がある。過去の「はじまり」を基として、現在における自身の立脚点を定め、そこでの自身のあり方の追求は不可欠と私は考えりがある。それを始めた時期や目的、創始者とされる人の思いが込められているはずである。だが、現在では、「はじまり」に思いを致すことが難しくなっているようと思う。しかし、立ち返るべき「はじまり」を認識することは、組織や領域に関わ

り、目的、結果、結語というステップで説明された。以下、概要である。

■はじめに

仏教保育協会の設立日（仏

保の「はじまり」）から85年余が経過している現在も設立日は明確ではなく、関係者においても「はじまり」は共有化されていない。これは協会設立当初、役員に共有されたはずの設立日を戦前に伝布し、戦後まで遺せなかつたためと考えられる。昭和30年代には戦後の機関紙「佛教保育」の中に、「想い出」などとして語られていたが、仏教保育協会の「はじまり」を巡つて設立日や設立経緯などを追求

り、目的、結果、結語というス

テップで説明された。以下、概要である。

■目的

前回の本学会では「日本佛教保育協会のはじまりについて」と題し、副題を「日仏保の誕生期と設立の目的」として今日の日仏保などにおける協会設立日への認識の現状や設立日を巡る問題、更には、協会設立後ににおける会則を基に協会の目的を、日仏保との比較を通してまとめ、当時の特長的な事業について報告した。

今回は、①日仏保が設立を定める際の手がかりを提示し、②「仏教保育」という言葉の「はじまり」を明らかにする。更に、これを踏まえた上で、③仏教保育協会設立の経緯をまとめる。

それが「仏教保育」という言葉としての「はじまり」はあるが、現在に繋がる意味・内容とは異なる。施設形態の側面から見れば幼稚園は含まれず、あくまで託児所などに限定して用いていた言葉である。しかし協会設立時点あたりから、幼稚園や保育所（託児所）にも「仏教保育」という言葉を使い始めている。

③仏教保育協会設立の経緯としては、堀は協会設立以前から保母の存在を重視し、養成所の必要性を痛感していたことに大きく関係している。養成所を開設するには、個人の力では限界がある。そこで、仏教界を中心

し、明らかにされないまま現在に至っているのが実情である。

また仏教保育研究では、仏教教育が主領域とされるのは戦前における協会の顧問を含めた役員の存在、戦後においては持田先生らのご尽力によるところが大きい。しかし、仏教福祉領域においては、日立たずとも永年にわたって研究が行われていた。現在では、就学前の幼児を対象とした仏教保育が仏教系の福祉活動の大半を占めており、仏教保育を通して領域的関係性への研究や連携が期待される。

協会設立に遡ること一年ほど前から堀 緑羊は、使用している。

それが「仏教保育」という言葉としての「はじまり」はあるが、現在に繋がる意味・内容とは異なる。施設形態の側面から見れば幼稚園は含まれず、あくまで託児所などに限定して用いていた言葉である。しかし協会設立時点あたりから、幼稚園や保育所（託児所）にも「仏教保育」という言葉を使い始めている。

③仏教保育協会設立の経緯としては、堀は協会設立以前から保母の存在を重視し、養成所の必要性を痛感していたことに大きく関係している。養成所を開設するには、個人の力では限界がある。そこで、仏教界を中心

し、その盛儀を記念する事業として開催した「発会式」を以て仏教保育協会は設立された。しかし、その3ヵ月ほど前の昭和3年7月28日の読売新聞に「仏教保育協会生る」と報じる記事が掲載されている。それに

じまり」とした手がかりから入

■結果



け、協会設立を目指したのである。佛教保育協会には、通佛教として幼稚園や託児所が一致団結するための共通の御旗が必要である。堀は協会設立に際して「佛教保育」という言葉に象徴的な意味合いを込めていたと考えられる。

■ 結語

佛教保育を研究する前提として、「佛教保育とは何か?」「(日本)佛教保育協会とは何か?」といった疑問を抱き、佛教保育という言葉や協会の「はじまり」に思いを巡らせ、追究することが必要である。同時に他の様々な研究領域においても、領域そのものを当初に問うこと不可欠である。佛教保育において「佛教保育」や「日仏保」などの「はじまり」に思いを馳せ、その「はじまり」を関係者で共有し、共通の背景を不斷に醸成し、未来に引き継ぐ使命を担っていることを忘れてはならない。



研究発表

佐藤 達全先生(育英短期大学教授・日仏保講師)

■ はじめに

最近、学生と接していく中で気になることがあります。自分で考えたり工夫したりしないで、答えを与えてもらおうとする傾向が強くなつたように思う。学習を進めることで求められる基礎的知識の不足はもとより、学習意欲が低いようと思う。今回発表するにあたつてその背景を考えるために、半導体の研究者として第一人者で知られる東北大学総長や岩手県立大学学長を歴任された西澤潤一氏の「現実には安直な知識量で(教育効果)を評価することは定着しかかり、しかもそれが教育の目的化し始めている」と思つてはいる。(岩波書店『教育の目的再考』1996年刊より)という言葉を紹介したい。

西澤氏が指摘したように、日本人の多くが教育の目的を見誤つて知識偏重に陥つたことに原因があると言えるのではないか。

1 佛教の保育(教育)観

しかし、日本の教育界では宗教(仏教)に対する独特的意識

誰の「いのち」も、たつた一つしかないこと。誰の「いのち」も、いつか必ず終わりを迎えること。

誰の「いのち」も、他の「いのち」と生かしあつてのこと。その現実を前提にして、私たちは生き方を学ばなくてはならない。

20年前に比べれば、社会の仕組みだけでなく人の生き方や価値観も大きく変化してきたにも関わらず、教育面では西澤氏が指摘した状況は変わっていない。

それどころか、その傾向はますます強くなつていてと言える。

西澤潤一氏の「現実には安直な知識量で(教育効果)を評価することは定着しかかり、しかもそれが教育の目的化し始めている」と思つてはいる。(岩波書店『教育の目的再考』1996年刊より)という言葉を紹介したい。

西澤潤一氏は、教育の目的は單なる知識の教授ではなく「生き方を学ぶことである」と述べてい

ど、多くの資料を披露しながら説明されました。発表後の質疑

も活発に行われました。

そうしたことが背景になつて、大学進学率が50%を超えたにも関わらず、高麗化と矛盾するような学習意欲が欠如した学生の増加や、学習成果の著しい低下が問題にされている。そのことが、高等教育修了者の社会性や人間性が問われるようになつてきたのかも知れない。小中学校における授業の崩壊や「いのち」を傷つけたり奪つたりする悲惨な事件が深刻な問題となつてきた。

西澤氏が指摘したように、「生きる力」などに触れ、「遊びを通しての指導中心」を謳う幼稚園教育の基本について述べ、最後に「智慧と慈悲による自己形成を目指す仏教の営み」を禅では「修行」と言い、理想の姿を「悟り」という。

すなわち、修行と悟りは一体であることを簡潔に表現したのが「行学一如」であると、締め括られました。

発表後の質疑にも熱い願いが感じられました。

となつて生きている(行学一如)という現実である。それにも関わらず、心だけ(理論や知識を過度に重要視する傾向)で、問題なく生きていけるといふ「思い込み」があるのでないか、そのため、「生きもの」としての人間を見るのではなく、「物体や数量・データとしての人間」という見方が広がつてゐるのではないだろうか。

このことは、一人の人間の中でも体と心のバランスも崩れ、様々な面で破綻をきたしていると思われる。

そこで「行学一如」の視点から、人間として生きるために基礎知識を培う保育・教育の在り方が問われるのです。

このあと佐藤先生は、平成14年から実施された「ゆとり教育」

や「生きる力」などを觸れ、「遊びを通しての指導中心」を謳う幼稚園教育の基本について述べ、最後に「智慧と慈悲による自己形成を目指す仏教の営み」を禅では「修行」と言い、理想の姿を「悟り」という。

すなわち、修行と悟りは一体であることを簡潔に表現したのが「行学一如」であると、締め括られました。

発表後の質疑にも熱い願いが感じられました。

2 現代日本における

保育(教育)の状況

3 なぜ「行学一如」

という認識が必要か

このようないく見えてくる事柄は「人間は体と心が一体

佐藤氏はパワー・ポイントを使つて、彌縫の協会設立の思いや歴史の節目節目の行事・催事、昭和6(1931)年7月に開催された全国佛教保育大会で「保母養成所設立」の決議を得て協会として動き出した事実、歴代会長の協会への功績などを

「報恩」とは、深い縁によって『生きどし生きることに感謝』し、喜んでその『恩に報いる』ことを指します。

「行持」とは、報恩のために『釈尊の教えを実践』し、本来具わった「仏心を開発・実現する』ことがあります。

「大覚」とは『大きいなる目覚め』のこと。釈尊が自然と人生に通じる無常と因果・縁起の道理を悟られたことを言い、釈尊への呼び名にもなっています。

「圓成」とは、その悟りを『自らのものとして完成』すること。正しい智慧を身に付け、生きどし生きる『すべてに深い慈愛をもつ』ことです。

謹んでお祝い申し上げます。

学校法人 総持学園（乙川暎元理事長）は、大正13年に光華女学校（現・鶴見大学附属中学校／同高等学校）を創設して本年で90年目を迎えられました。

**祝
創立90周年、おめでとうござい
ます。**

つまり、「感謝を忘れず真人（ひと）となる」を以って建学の精神としています。人知性を磨き、他者への思いやりを持った人を「真人（ひと）」と言い、「鶴見大学」「鶴見短期大学部」「鶴見大学附属高等学校」「鶴見大学附属中学校」「鶴見大学短期大学部付属三松幼稚園」の各学園でそれらを身に付け「輝ける人」を世に送り出してこられて90年——

これからも『感謝のこころ育んで いのち輝く人』を送り出してください。

**「おめでとうござい
ます」**

公益社団法人 日本仏教保育協会
理事長 緑谷一雄
社員一同

ご存知でしたか？ 嘔吐物・汚物は、悪臭だけでなく、ウイルス・細菌を含む場合があり、処理する際は…

迅速かつ安全に行う必要があります。

△ 感染性胃腸炎では、嘔吐物・汚物の適切な処理が重要

お困りではありませんか？ 誰もが嫌がる、嘔吐物・汚物

安全・速効・オブソポイポイが

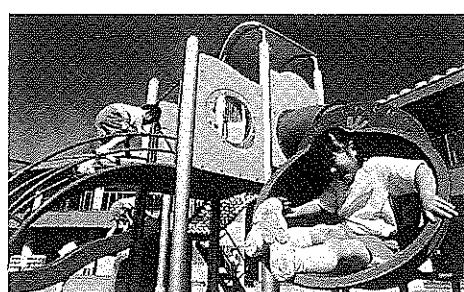
汚れた → 使う → 固める

高品質二酸化塩素の効果で消臭・除菌・凝固させます！

セット価格：¥1,050
(税込) 2個入り
コンビニ決済可

セット内容：2個入り
（詰替用×2個）
詰替用×2個

株式会社 ジャクエツ
www.jakuetsu.co.jp



すべては、子どもたちのために。

地域特有の個性と文化を育み、
保育環境の未来を提案する。
それが、私たちの仕事です。

株式会社 ジャクエツ
www.jakuetsu.co.jp



秋田光茂先生
去る9月12日、パドマ幼稚園
学園長（大阪市天王寺区）の秋
田光茂先生が逝去されました。
行年85歳でした。

秋田先生は昭和5年生まれ。
大学卒業後28歳でパドマ幼稚園
(浄土宗大蓮寺)園長として奉
職され、昭和32年に同寺住職に
就任。以来半世紀にわたって
幼児教育一筋に努めてこられま
した。昭和59年に総合幼稚教育
研究会(総研)を創設。

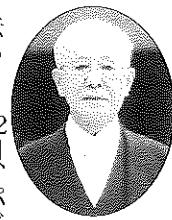
総研とは大脳生理学の知見
に基づき「知(ことば)・情(り
ズム)・体(うごき)」による三
位一体の活動をそれぞれ有機的
な関わりを持つものと捉え、幅
広い活動を継続的、総合的に展
開することで偏りのない幼児の
発達を目指すものとしていま
す。全国210余の幼稚園・保
育園が加盟し、秋田先生は会長
として指導に当たつてこられま
した。

公益社団法人日本佛教保育協会
理事長 緑谷理事長
社員一同

昭和61年、社団法人日本佛教
保育協会(現公益社団法人)が
奨励事業として制定する「持田
賞」に著作『のびる仮の子』が
選ばれ受賞(於、第19回全国仏
教保育埼玉大会)されました。
その後も『共生の幼児教育』
『子育て南無のこころ』ほか多
くの著書を編む傍ら、講演など
の活動を積極的につけ、生涯
を通して幼児教育一筋に尽くし
てこられました。

茲に生前のご功績を称えます
とともに、謹んでご冥福をお祈
りいたします。

合掌



報 計

パドマ幼稚園学園長
総合幼稚教育研究会会长

秋田光茂先生

昭和61年、社団法人日本佛教
保育協会(現公益社団法人)が
奨励事業として制定する「持田
賞」に著作『のびる仮の子』が
選ばれ受賞(於、第19回全国仏
教保育埼玉大会)されました。

議題	①平成26年度補正予算(案)	②平成27年度事業計画(案)	③平成27年度収支予算(案)	④その他(案)
会場	大本山増上寺・光壇殿	平成27年1月20日(火)	14時30分～15時30分	

平成26年度 第2回 仏教保育研修会

日 時 平成27年1月20日(火)
時 間 16時00分～17時30分

会 場 大本山増上寺・光壇殿
講 師 国吉栄先生

演 題 (白百合女子大学非常勤講師)
「幼稚園誕生の物語」

～「諜者」関信三とその時代～

会 場 バ・プリンスパークタワー東京
地 下 2 階ボールルームA・B

時 間 18時00～

(*議員、関係者ご招待)

関西地区連絡協議会

日 時 平成27年2月5日(木)
時 間 平成27年2月5日(木)
会 場 調整中
報告会 15時30分～

養成機関連絡協議会

日 時	平成27年2月23日(月)	時 間	(協議会) 16時00分～17時30分
会 場	芝パークホテル本館2階「桜」	時 間	(懇親会) 18時00分～
テーマ	検討中		

事務局印

10 ／ 30	10 ／ 7	「仏カリ」「仏教保育」編集会議 事務局会議 「ほとけの子」拡大会議
---------------	--------------	---

熊本の「赤ちゃんポスト」に過日、生まれたばかりの赤ちゃんを置いて去った者がいた。係員が抱き上げた時には、すでに死くなっていたという。赤ちゃんポストについては開設当初から賛否両論があつた。「匿名」で預けていくため、親が誰かも知らずに一生送るのは心に深いキズを負い続けて生きることになる」「この世に生を受けた赤ちゃんを死なせないためにも必要」と、意見は分かれる。どちらにせよ、預けられた子どもにとっては「理不尽な親」であることよ!!

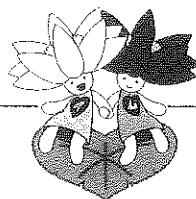
7月には、盲導犬がフォークのようなもので刺された。日の不自由な方が電車で職場に向かう途中の出来事だそう。盲導犬は「ハーネス」と呼ぶ胴輪を通して危険な場所を教え、最後まで安全に歩くための手伝いをする。そのために、盲導犬は无数次を負つても声ひとつ立てないで目的地まで誘導する訓練が出来ている。まさに「一心同体」である。つまり、目の不自由な人自身を刺したも同然の犯罪行為ではないか！それを、器物損壊容疑でしか犯人を搜せないという。なんと理不尽な。

8月には「 Dengue熱」が話題を賑わした。代々木公園で、「Dengueウイルス」を持つた蚊に刺されたらしい。その後、あちらこちらの公園が閉鎖されているが、日本国内で確認されたのは70年ぶりだそうだ。人から人には感染しないというが刺されたり人は腹痛や発熱などの症状が出るとか。特効薬はなく、予防ワクチンもない。治るまで「じっと耐える」しかないそうだ。10月に入つて静まつたものの、理不尽な。

理不尽なでござと

いやはや、このところ面白くない話題が相次ぎ、その理不尽さに強い怒りを覚えてしまう。

公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105-0011東京都港区芝公園4-7-4
ホーリーページ <http://www.buppo.com/>
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519
発行人 緑谷一雄 編集人 五島 満
毎月1回1日発行(1部315円)



佛教保育綱領

慈悲不殺	生命尊重の保育を行なおう
仏道成就	正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進	よき社会人をつくる保育を行なおう

■秋が深まっています。掃いても掃いても降り積もる落ち葉。秋は寺にとつてちょっとぴり恨めしい季節かもしれません。アスファルトの都会では落ち葉は完全に邪魔者扱いです。近所の苦情もあり、最近は神社仏閣の大きな木が次々と切られているそうです■私は落ち葉が大好きです。風に吹かれて舞い落ちる様は春の桜吹雪に勝るとも劣らない美しさだと思っていますし、境内を落ち葉の絨毯で埋め尽くしたらどんなに素敵だろうと、一人妄想にふけつたりします。じっくり観察すればその色や形に眼を奪われ、感動させられることもしばしばです■子どもにとつても落ち葉は素晴らしい遊び相手です。食材器、お金、アクセサリー。園庭に敷き詰めれば絨毯や布団。やがて虫たちの寝床になります。冬には美味しい焼き芋を焼いてくれ、最後は土になつて木や草花に栄養を与えてくれます。なんて大切な仲間なのでしょう■私たち人間も自然の一部。落ち葉を邪魔者にすれば、やがて痛いしつ返しがくるかもしれません。いま、子どもたちともっと深く落ち葉を知り、感じ、楽しみたいものです。

編集後記

紙芝居 おしゃかさま 全4巻

○おたんじょう(12場面)○四つの門(13場面)○おさとり(16場面)○ねはん(12場面)

セット定価 本体¥20,000(8%税込¥21,600)※

脚本・絵／諸橋精光 画面38.2×26.5cm 豪華化粧箱入り
保育現場や布教活動の場で幅広くご活用いただけるよう、おしゃかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子でも集中力を保てる適度な場面数でお手元です。



ご注文
お問い合わせ
すすき出版